

## 2025年度大学院博士前期課程一般入学試験（第Ⅲ期）問題

研究科名	科目名
文学研究科 社会学専攻	選択問題

以下の質問のうち、一つを選択し解答しなさい。

- 1) 現代日本における教育格差について論じなさい。
- 2) 創価教育の現状と課題について論じなさい。

解答または解答例：

Sample Answer(s) or Outline：

- 1) 日本の教育学における統計データによると親の学歴や収入が子供の学力に影響を与えているといった論が展開されてきた。このような状況は、フランスの社会学者、ピエール・ブルデューの文化資本論などによってもより多角的に理解することができる。そこでは、子供を塾などに通わせる親世代の経済力や経済格差のみならず、家庭環境において親世代から子世代に継承される立ち居振る舞いや言語活動、感性などといった身体的文化資本、所有物などの客体的文化資本、それらによって取得される免許やライセンスといった制度的文化資本が、学校教育における子供の勉強への態度やモチベーションなどとも連動し、それらが教育格差を拡大するといった動向が指摘されている。こうした状況は日本の学校教育においても看取されるが、それゆえ特に中間階級の親世代においては必要以上に子供への教育に関する投資を意識し、幼稚園受験など受験の早期化も進展しているのが現状である。
- 2) 創価教育は創価学会初代会長である牧口常三郎の主著『創価教育学体系』で提示された「価値創造」という思想に基づく教育論を前提に展開される教育実践である。牧口は「教育の目的は児童の幸福」であるとの理念を掲げ、人間主義教育に基づく教育実践を標榜したが、そのような理念は創価学会第三代会長である池田大作によって、具体化する。現在は、小学校から高等学校までの一貫教育を前提とした創価学園（東京・関西）、創価大学、アメリカ創価大学、ブラジル創価学園、幼稚園（日本、香港、シンガポール、マレーシア）など多角的な教育実践が展開されている。創価教育の課題としては、牧口や池田の思想的根幹にある仏教思想をどの程度、教育プログラムに連動させていくのか、国家的枠組みの中で維持されてきた教育制度において、創価教育を標榜する教育実践が、いかに国家の影響から自由なプログラムとして維持されうるのか、といった点にある。それは入試による学生選抜の回避や、大量生産・大量消費を前提とした大衆教育から少人数制教育へのシフトなどがあげられよう。また創価教育が日本において形成されてきたという背景から、今後、創価教育という実践が特に日本国外において、普遍的価値の共有ではなく日本文化的価値の共有にシフトしていかないよう、定期的に検証することが重要である。

出題意図：

Purpose of Question：

- 1) 教育学や社会学に関する基本的な知識について確認することを目的としている。
- 2) 創価教育に関する基本的な知識について確認することを目的としている。